寄稿

# もっとみんなに知ってほしい 臍(さい)帯血バンク

手稲渓仁会病院 産婦人科部長 母子はぐくみセンター副センター長 福士 義将

白血病などの血液疾患、小児がんなどの治療に用いる造血幹細胞(血液を作る大元の細胞)の移植には、骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植の3つがあります。臍帯血の凄いところは、①造血幹細胞を骨髄の10倍も含んでいること、②臍帯血細胞は凍結保存されているのですぐに移植できること、そして③骨髄移植と違いHLA(白血球の型)が完全に一致しなくても移植が可能であることです。この臍帯血を調製・凍結保存しているのが公的臍帯血バンク(臍帯血供給事業者)です。日本には6つのバンク(北海道、関東甲信越、中部、近畿、兵庫、北九州)が存在し、当院は「北海道さい帯血バンク」に協力している限られた施設(他には札幌市:札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル、札幌東豊病院、札幌西レディースクリニック、愛産婦人科、手稲あけぼのレディースクリニック、勤医協札幌病院、福住産科婦人科クリニック、札幌徳洲会病院、石狩市:エナレディースクリニック、旭川市:森産科婦人科病院)のうちの1つであり、臍帯血の採取協力を行っています。

手稲渓仁会病院
産婦人科部長
母子はぐくみセンター副センター長
福士 義将

臍帯血の採取に際し、母子に痛みや危険性は全くありません。お産後に赤ちゃんとへその緒を切り離してから胎盤が出てしまう前にへその緒の血管に針を刺して、へその緒と胎盤に残っている血液を採取します。お産の状況などによっては母子の安全を最優先するために採取しないこともあります。また、採取量や造血幹細胞の数にも基準があるため、移植用として最終的に保存される臍帯血は狭き門です。そのため、多くの妊婦さんの協力が必要であり、協力していただける妊婦さんが増えればと思い日々診察しています。

現在、国が目標としている臍帯血の保存数は2万本、それに対して2020年末の保存数は約9200本であり、目標の半分にも届いていません。日本ではここ数年、骨髄移植よりも臍帯血移植の方が多く実施されていますが、臍帯血の保存数が少ない要因の一つに認知度の低さが挙げられます。臍帯血の必要性をより多くの人に知ってもらおうと北海道さい帯血バンクでは地下鉄駅構内、市電停留所、赤ちゃん休憩室、キッズルーム、マタニティ用品売り場などにPRポスターを掲示するなどの広報活動を進めています。昨今の新型コロナ感染症の流行と感染防止対策のため、骨髄・末梢血の移植数は低下傾向にあり、今後益々、臍帯血移植のニーズが増すことが予測されます。

臍帯血の提供は、産声をあげた赤ちゃんが、初めてだれかの役に立つことができる、いわゆる素晴らしい初仕事と言えます。そんな赤ちゃんがどんどん増えてくれることを切に願うばかりです。偶然この文を目にされた方が少しでも臍帯血バンクの活動を理解し、広めていただけると幸いです。

**〈北海道さい帯血バンクのホームページ〉**
https://www.bs.jrc.or.jp/hkd/hokkaido/special/m6_01_02_00_132.html

医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院 ■札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 ■https://www.keijinkai.com/teine/